

## 「グループホーム」対応可能な医療行為一覧

名・処置内容	可否	ご入居受入れに関する基本的な考え方
在宅酸素	○	医療連携体制構築により対応可
膀胱留置カテーテル	○	詰まり、抜去等緊急対応時は主治医との連携により対応可
ペースメーカー	○	検査・術後安定している方は対応可
人工肛門（ストーマ）	△	自己管理可能な方は医療連携体制構築のにより対応可
褥瘡（床ずれ）	△	処置内容や状態により対応検討
インシュリン	△	自己注射ができる方は対応可。
胃ろう	△	医療連携体制構築により対応可（人数制限あり）
透析	△	医療連携体制構築により対応可（人数制限あり）
痰吸引	×	
末期がん	△	看取りを希望され、主治医及び訪問看護との連携により対応可
認知症	○	共同生活を営むことに支障がない方は対応可

その他、状態や処置内容により要相談となります。

医療行為に関しては、主治医からの指示により、訪問看護などの看護師により対応させていただきます。

## 感染症対応

感染症	可否	ご入居受入れに関する基本的な考え方
疥癬	△	通常疥癬は対応可。角化型疥癬は難
肝炎	△	感染の恐れのない±0のキャリアであれば可
ブドウ球菌感染症（MRSA）	△	感染の恐れのない±0のキャリアであれば可
結核	△	レベルによる
HIV（ヒト免疫不全ウイルス）	△	感染の恐れのない±0のキャリアであれば可

その他の感染症に関しては個別相談とさせていただきます。